

令和6年度

研究年報



秋田県立金足農業高等学校

はじめに

校長 工藤 雅文

今年度、新学習指導要領で3年間学んだ生徒が初めて社会に旅立つ。これまで第4次（平成元年）改定で生活科の新設、第5次（平成10年）改定で生きる力、総合的な学習時間の新設、情報科の新設、第6次（平成20年）改定で言語活動の充実、外国語活動の新設、そして第7次（平成29年）改定で主体的・対話的で深い学び、とおよそ10年毎の改定により学習指導要領は、時代の価値観の変容を示してきた。現指導要領で3年間学んだ生徒が社会に飛び出し、どのような活躍を見せるか見守りたい。

近年、社会の急激なICT化や個々の意識の変化、及び自然災害の頻繁化、甚大化により、若者が将来像を描きにくい世の中になりつつある。そして今日の地球上の問題は、人類の誰一人答えを知らない問題ばかりである。地球の温暖化、貧富の差の拡大、軍事大国の隣国への侵略、県内においても想像以上に急激に進む人口減など、数えればきりが無い。このような問題への完璧な解決策は世界中の誰一人持っていない。また、正解は一つではなく、複数の答えがあるかもしれないのである。そうした中で教師に求められていることは、複雑な現代社会の中で、明確な目的意識を定めながら、意欲的、主体的に生き抜いていくための豊かな社会性を持ち合わせた生徒を育てることであると言われている。もちろん、高等学校においては、豊かな人間性を培うことや社会性を身につけるための教育活動の展開は当然必要であり疎かにできないが、それ以前に、基本的な学習活動の積み重ねが土台にあることも忘れてはならない。

現在、学校が抱える教育課題は社会と同様に複雑化・多様化している。この難しい局面での教育目標の達成は、我々教員の意識改革抜きには考えられない。さらには、教員同士が教科・科目の垣根を越えて、情報交換し、学び合い、助け合いながら教職員一人ひとりの力量を高め、学校力を高めていく必要がある。生徒の将来の生き方や価値観が学習意欲に影響していることが想定されることを考えると、アプローチの仕方に工夫が必要であると同時に、生徒の基本的学習習慣の確立に向けて、教員の幅広い知識や指導法、指導技術を踏まえた効果的な教育活動の展開が必要となってくると思われる。

一人一台タブレットの効果的な活用、観点別評価、指導と評価の一体化、SDGs、探究活動、令和の日本型教育など、教育に求められるものは多くなっている。日々の授業を大切にし、生徒を更に一段階伸ばすという意識で授業改善を行いながら、今後も新しい教育課題に取り組んでいく必要がある。

本研究年報が、創立96年目を迎えた本校の教育活動のあり方を幅広く研鑽するための道標となり得ることを期待するとともに、発行に当たり尽力された多くの皆様に敬意を表す。

最後になりますが、御高覧頂きました皆様方より、率直な御感想や、課題について御指摘、御教示いただけましたら、本校教職員、生徒のにとって大変ありがたく存じます。

目次

はじめに

校長 工藤雅文

1 校内一斉授業研究会

実施要項

1

1) 地歴公民

教諭 大島俊也

2 ~ 8

2) 保健体育

教諭 内藤慎平

9 ~ 15

3) 農業

教諭 森合慎一郎

16 ~ 21

4) 農業

臨時講師 佐藤旭浩

22 ~ 26

写真

27

2 個人研修

1) 実践的指導力習得研修講座を受講して

教諭 齋藤潤也

28

2) 実践的指導力習得研修(採用3年目)を終えて

教諭 森合慎一郎

29

3) 中堅教諭等資質向上研修講座を終えて

教諭 和泉有紗

30 ~ 33

3 不祥事防止研修

1) 体罰防止(1班)

34

2) 部活動事故防止(1班)

35

3) 猥褻行為防止(1班)

36

4) 体罰防止(2班)

37

5) 部活動事故防止(2班)

38 ~ 39

6) 猥褻行為防止(2班)

40

7) 飲酒運転防止(1班)

41

8) 学納金・部活着服防止(1班)

42

9) 交通事故防止(1班)

43 ~ 44

10) 飲酒運転防止(2班)

45

11) 交通事故防止(2班)

46

12) SNS事故防止

47

1 校内一斉授業研究会

令和6年度「校内一斉授業研究会」実施要項

1 目的 総合教育センター、秋田西高等学校と連携し、「生徒の言語活動の充実」及び「生徒自らが課題を発見し解決を図る授業展開を工夫する」という視点から職員の授業力の向上を図る。

2 期日 令和6年11月22日（金）

3 授業者・教科・科目等

授業者	教科(学科)	科目	授業クラス	単元
大島 俊也	地歴公民 (公民)	公 共	2年L組 (造園緑地科)	自立した主体として社会に参画する私たち
内藤 慎平	保健体育	体 育	1年F組 (食品流通科)	器械運動（マット運動）
森合慎一郎	農 業 (生物資源)	農業と環境	1年B組 (生物資源科)	栽培と飼育の基礎
佐藤 旭浩	農 業 (食品流通)	食品流通	2年F組 (食品流通科)	食品流通のしくみ

4 外部指導助言者

保健体育 総合教育センター 教科・研究班 指導主事 金森 道 先生

5 当日の日程

5校時まで	～13:50	※45分授業
帰SHR	13:50～13:55	※研究授業クラス以外
清掃放課	13:55～	
校外参加者受付	14:00～14:20	
6校時	14:25～15:15（50分）	研究授業
	（帰SHR 15:15～15:20 ※研究授業クラス）	
放課後	15:35～16:25（50分）	研究協議会（科目別）

公民科（公共）学習指導案

日 時：令和6年11月22日（金）6校時
 ク ラ ス：2年L組（33名）
 場 所：2年L組教室
 指 導 者：大島 俊也
 使用教科書：公共（東京書籍）

1 単元名 民主政治と私たち

2 単元の目標

- (1) 政治参加と公正な世論の形成などに関わる現代的な社会の事柄や課題を基に、意見や利害の対立状況を調整する。知識を形成する。意図的・主体的に課題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れ、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりし、論拠を保持して表現する。（思考・判断・表現）
- (2) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。（主体的に学習に取り組む態度）

3 生徒と単元

(1) 単元観
 高等学校学習指導要領解説にのらば、本単元は「よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整し、合意形成や社会参画を視野に入れ、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりし、論拠を保持して表現する。」として「インターネット時代を踏まえ、多面的・多角的に考察し、公正な判断力を身につけたい。」

(2) 生徒観
 2年L組の生徒は、公共への興味関心が高く、意欲的に学習に取り組むことができる。その一方で、公共の内容を「知識」に止まり、インターネット時代の世論について考察させ、メディアと世論などをつい「知識」を社会の形成者として自覚を育てたい。

(3) 指導観
 情報社会では、情報の妥当性や信頼性を踏まえて確認する必要がある。本時の学習では、メディアの一般化や情報リテラシーの獲得を促し、生徒が本時の学習で、事実から、公正な判断力に基いて、適切な選択をする基となることを理解させ、公正な判断力に基いて、適切な選択をする基となることを理解させたい。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
政治参加と公正な世論の形成などに関わる現代的な社会の事柄や課題を基に、意見や利害の対立状況を調整する。知識を形成する。意図的・主体的に課題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れ、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりし、論拠を保持して表現する。	自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりし、論拠を保持して表現する。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

5 指導と評価の計画

時間	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法		
		知識・技能 (ア)	思考・判断・表現 (イ)	主体的に学習に取り組む態度 (ウ)
1	私たちの民主政治	さまざまなレベ ルの政治の意 義や働きにつ いて理解してい る。	現代の民主主義 の課題について 、多角的に考 え、表現してい る。	現代の民主主義 の課題について 、主体的に追 究している。
2	地方自治のしくみ と役割	地方自治におけ る住民参加の 意義などにつ いて理解してい る。	地方自治におけ る住民参加の 意義などにつ いて、多面的 に考察してい る。	
3	国会のしくみと役 割	三権分立と国会 の地位、国会 の役割と権限 の構成と理解 している。	三権分立と国会 の理念、国会 の運営について 、多角的に考 察し、表現し ている。	
4	内閣のしくみと役 割	内閣と国会との 関係、内閣の 役割と行政組 織の行政改革 について理解 している。	内閣の制度の基 本理念、政治 の運営について 、多角的に考 察し、表現し ている。	
5	政治参加と選挙	民主政治と選挙 制度、日本選 挙制度について 理解している。	日本の選挙制度 の課題について 、多角的に考 察し、表現し ている。	
6	政党と利益集団	日本の政党政治 にかかわる課 題などについて 理解している。	日本の政党政治 にかかわる課 題などについて 、多角的に考 察し、表現し ている。	
7 (本時)	メディアと世論	正しい情報に基 づく公正な判 断力、メデ ィア・情報 リテラシー の重要性を理 解している。	民主政治に 基づく公正な 判断力、多 面的に考察し 、表現してい る。	

6 本時の計画

(1) 本時の目標 (ねらい)

- ・兵庫県知事選挙においてマスメディアの情報よりもソーシャルメディアの情報を選択した事実から、理由を一般化することができる。
- ・一般化した基準をもとに、マスメディアやソーシャルメディアから正しい情報を得るためにメディア・リテラシーと情報リテラシーが必要であることを理解する。
- ・公正な判断力について、獲得した知識と一般化した理由を結びつけて考察し、自らの意見を表現することができる。

(2) 展開

	学習活動	指導上の留意点	評価場面・評価方法
導入 5分	1 本時の学習内容を確認する。	・資料を活用して、本時の学習の有用性を感じさせ、学習意欲を喚起する。	
	目標 公平な判断力とはなにか、自分の考えをまとめよう。		
展開 35分	2 メディアと世論について、ワークシートで確認する。	・学習課題につながる箇所を重点的に説明する。	
	学習課題 マスメディアの情報よりもソーシャルメディアの情報を選択したのか		
	3 動画からの情報を取捨選択、比較し、マスメディアの情報よりソーシャルメディアの情報を選択した理由を一般化し、新たな学習課題を設定する。	・Youtubeで関連する動画を視聴し、学習課題に必要な情報を取捨選択するように指示する。 ・動画からの情報を構造化し、板書する。 ・「投票した人々の発言」に注目するように促す。 ・新たな学習課題を設定する。	
	学習課題の例 多くの情報から「信頼できる」「信頼できない」と判断するために必要な能力とはなにか 多くの情報から「正しい」「正しくない」と判断するために必要な能力とはなにか。		
	4 信頼できるまたは正しい情報を得るためには「メディア・リテラシー」「情報リテラシー」に気付く。	・資料を提示し、学習課題の考察の手がかりを与える。 ・「批判」「選択」の視点を踏まえるために必要な能力が「メディアリテラシー」「情報リテラシー」気付かせる。	・課題の考察から必要な能力が「メディア・リテラシー」「情報リテラシー」に気付いている。 (ア、ワークシート)
まとめ 10分	5 本時の学習を踏まえて、「公正とはなにか」という問いに対する考えをまとめる。	・自らの考えをまとめることで、民主政治にとって公正な判断力が重要なことに気付かせる。	・本時の学習を踏まえて、自分の考えを論理的に表現している。 (イ、まとめの確認)

7 目指す生徒像

メディア・リテラシー、情報リテラシーを理解し、公正な判断力について、自らの意見を論理的に表現できる生徒。

本時の目標「公正な判断力とはなにか、自分の考えをまとめよう。」

A 民主主義における世論

1 世論

世間一般の意見

大多数の賛同が得られている意見

2 マスメディア

新聞やテレビ、ラジオなど、マスコミュニケーションの媒体になるもの。

一方通行の情報発信

3 ソーシャルメディア

インターネット上で、利用者どうしが情報を送受信することで成り立つメディア。

双方向性の情報発信

B メディアの影響

1 悪い面

メディアによる世論操作が行われる。

2 良い面

人々の政治活動を支える

→影響力の強さから立法、行政、司法に次ぐ「第四の権力」とよばれる。

C インターネット時代の世論

1 情報量

インターネットの発展によって、提供される量は飛躍的に増加した。

2 問題点①

不正確な情報の広域の普及

→ソーシャルメディアに多く見られる。その要因として、事前に十分な確認をへなくても情報を発信できるため。

3 問題点②

限定された範囲の情報しか受け取れなくなる可能性の増加

→インターネットで情報検索の結果が記録され、一人ひとりが好む情報が提供されるため

4 問題点③

世論の分断化

→一人ひとりが限定的な情報に接し、考えの近い人々の同調することで特定の意見や立場が強化される。

→こうして、世論はより極端な意見・立場に分断・収束される。

まとめ「公正な判断力とはなにか、自分の考えをまとめよう。」

【授業研究会の記録】

期日	令和6年11月22日（金）	記録者	熊谷早智子	授業者	大島 俊也
指導助言 : 羽深康之（金足農業高校教頭） 司 会 : 佐々木真弓 参加者 : 鈴木 満、佐々木真弓、小林 晃、中村 東、照内之尋、渡部玉緒、熊谷早智子（本校職員）					
1. 授業者より ・「公正な判断力とは何か」を目標に授業を実施した。授業の流れを提示できたことはよかったが、内容が多すぎた。ICT機器の使用について、トラブルが発生してしまったことは反省点である。確認しておけばよかったと思う。生徒はよく頑張ってくれた。全体として改善点が多い授業だったので、ご指摘いただければありがたい。					
2. 協議 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">よかった点</div> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が先生を好きで、生徒との距離も近く、生徒が一生懸命に取り組んでいることが伝わってきた。落ち着いていて、和やかでいい雰囲気だった。 ・時事的なテーマで着眼点がよく、タイムリーな内容だった。批判的にみて判断し、最後に何が正しくて何が正しくないのかをまとめさせていてよかった。 ・タイムリーな話題でメディアの影響力、比較（告示前と当選後）、考えを深められる内容が興味深かった。グラフ等の資料、動画等も効果的にも用いられ、知らない部分も見越して資料もわかりやすかった。 ・授業がよく展開されていた。動画・ICTを使用していることもよかった。トラブルがあったが、写真でリカバリーできている。プリント記入後のチェックも生徒に動きがあってよかった。 ・視覚的でわかりやすく、先生のものだけではなく生徒のものも提示していたことがよかった。ハプニングに動ぜず、それでも指導案通りの時間で終わった授業は素晴らしい。生徒の表情もよく、「何を勉強したか」が残る授業で、信頼関係が成り立っていると思った。 ・プリントとICTのバランスもよく、巧みに使われていて参考になった。 ・授業の流れを伝えていて、「マーカー持って」など指示がわかりやすい。 ・生徒から授業テーマを引き出し共有することで、1時間の学びを生徒が実感していた。メディアリテラシー、情報リテラシーという知識を取捨選択、活用する術や心構えを学ぶ、大きなテーマを生徒に考えさせ、社会に出た後も役に立つ実践的な学習だった。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;">改善点</div> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発言力を生かしていなかった。問いかける場面が少ない。 ・課題②の2つの能力について、説明不足だった。生徒に考えさせる時間がほしかった。 ・プリントを提出できなかった生徒へのフォローはどうするのか。机間指導が必要だったのではないか。 ・生徒のSNSやテレビのイメージを確認したほうがよかったかもしれない。 					

質問

- ・ SNS の力を強調していた。そうであれば衆院選、裏金議員、アメリカ大統領選挙もあったが、なぜ兵庫県の知事選を取り扱ったのか。

回答

- ・ メディアの影響を伝えなかった。身近に感じられた事例だったから。

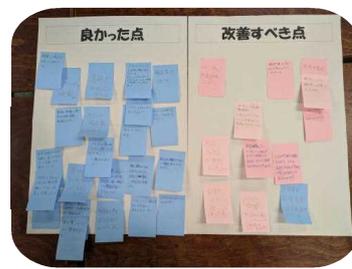
3. 指導助言

・ 18歳で選挙権、来年は知事選もあるので、政治に興味を持たせるにはいい教材であった。情報モラル教育と関連させてもいい取り組みであった。ICT活用も効果的で、全員で共有することもよい。机間指導をしながら生徒の意見を聞く、プリントを持ってこさせて丸付けをすると、生徒は喜ぶ。褒めることも必要である。生徒への投げかけた「先生が言ったことも正しいかは？だよ」、「すべてが正しいか判断するのは自分だよ」ということばもよかった。改善点はアプローチが長かったこと。マスメディアとソーシャルメディアの対比により、ネットで確認して良かったとか悪かったとか、大多数の意見が本当に正しいかなど、自分の判断に自信が持てなくなっているのではないかな。詐欺が多くなってきているので、騙されない防御力になるのかなど、判断力が大事になる。自分たちの身を守ることに繋がる。今回の授業は選挙についてだったが、消費者教育に繋げていければと思う。

授業風景



研究会



保健体育（体育）学習指導案

日	時	令和6年11月22日(金)6校時	
場	所	第1体育館	
ク	ラ	ス	1年F組（食品流通科）
使用教科書	現代高等保健体育（大修館書店）		
指導者	内藤 慎平		

1 単元名 器械運動 ア マット運動

2 単元の目標

- (1) 次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解するとともに自己に適した技で演技することができるようにする。
 - ・ マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと、それらを構成し演技すること。（知識及び技能）
- (2) 技などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な課題解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。（思考力、判断力、表現力等）
- (3) 器械運動に自主的に取り組むとともに、よい演技を讃えようとする事、互いに助け合い教え合おうとする事、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする事などや、健康・安全を確保することができるようにする。（学びに向かう力、人間性等）

3 生徒と単元

「単元観」… マット運動は主に回転技や倒立する技で構成されており、自己の能力に応じて、新しい技に挑戦するなどの課題に取り組み、課題を達成することで、運動の楽しさや喜びを味わうことができる。安全に活動するために指示どおりに活動することや、互いに協力することも大切な指導内容となる。

「生徒観」… 食品流通科で学ぶ男子生徒17名である。授業態度は良好であり、座学・実習など教科全般に真面目に取り組んでいる。運動への興味・関心も高く、7割の生徒が運動部に所属しており、残り3割の生徒も体育の授業に前向きに取り組む姿勢が見られる。

「指導観」… 事前の練習で倒立する技の習熟度が低いことが明らかになったため、「倒立前転」について重点的に取り組むことにした。ICT機器を活用して自分の演技と他者の演技を比較することで、課題の発見と他者との意見交換や助言を促し、思考を深めさせるとともに表現力を向上させたい。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・技の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 ・運動観察の方法について、理解したことを言ったり書き出したりしている。 ・発表会や競技会の仕方について、学習した具体例を挙げている。 ・マット運動では、回転系や巧技系の技で構成し演技するための、滑らかに安定した基本的な技、条件を変えた技、発展技のいずれかができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題に応じて、学習する技の合理的な動き方の改善すべきポイントを見付けている。 ・自己の課題に応じて、適切な練習方法を選んでいる。 ・自己の技能・体力の程度に応じて、目指す技や技の組合せ方を見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・器械運動の学習に主体的に取り組もうとしている。 ・よい演技を讃えようとしている。 ・自己の責任を果たそうとしている。互いに助け合い教え合おうとしている。 ・健康・安全を確保している。

5 指導と評価の計画（8時間）

時間	ねらい・学習活動 (○がねらい)	評価規準・評価方法 (◆が評価方法)		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 h	導入・オリエンテーション ○:学習計画、事故防止について理解する。			活動場所の安全を確かめ、健康・安全に留意しようとする。 ◆観察
1 h	基本的な技の出来映えについて確認する。 ○:基本的な技の大きさや出来映えのよさについて理解する。	技の系統性に基づいた技の名称を言ったり書き出したりしている。 ◆観察		
1 h	基本的な技の習熟度を確認する。 ○:基本的な技の出来映えを高める	基本的な技を滑らかに安定して行うことができる。 ◆学習シート		
1 h 本時	映像や助言を活用して、基本的な技の課題を解決する。 ○:基本的な技の出来映えを高める。		演技の出来映えを高めるための、自己や他者の課題を解決するための練習方法を選んでいる。 ◆学習シート	
1 h	・つなぎとなる巧技系の技の導入 ○:自己に適した技の組み合わせができる。			
1 h	・自己に適した技で演技を構成する。 ○:演技構成を工夫することができる。	基本的な技で構成した演技を滑らかに行うことができる。 ◆観察		
1 h	・自由演技で使う、技の組み合わせの練習を行う。 ○:自由演技の出来映えを高めることができる。		自己の技能・体力に応じた、技の組合せ方などの演技構成の仕方を選んでいる。 ◆学習シート	
1 h	・自由演技発表会 ○:練習の成果を発表するとともに、仲間のよい演技を賞賛することができる。			仲間のよい動きや演技を、認め合い、たたえようとする。 ◆観察

6 本時の計画

(1) 本時の目標 (ねらい)

映像分析や互いの意見交換・助言を通して課題を見つけ、課題解決に向けて練習を工夫することができる。
(思考・判断・表現)

(2) 展開

	学習活動	指導上の留意点	評価場面・評価方法
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容の確認 ・準備運動 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標と学習の流れを提示し、見通しをもって活動ができるようにする。 ・準備運動を徹底し、怪我防止に努める。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> 本時の目標：映像や助言を活用して、「倒立前転」の課題を解決しよう！ </div>			
展開 40分	<p>【展開1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本練習 (首・体幹の補強運動、倒立練習) <p>【展開2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3人組で技を練習し、撮影する。 ・撮影した映像を各組で分析し、互いの意見や助言を通して課題点を探す。 ・課題を意識しながら、再度技を練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全第一で活動することを徹底し、着地の方向などを確実にこなせる。 ・役割(演技者、撮影係、補助係)を速やかに交代しながら取り組むように指示する。 ・見本となる演技と自分の演技を見比べて課題を探しているか確認する。 ・話し合いで出た意見や助言を学習シートにメモさせる。 ・必要に応じて、課題解決に向けた練習方法の例を示すようにする。 	映像分析や助言をとおして課題を見つけ、課題解決に向けて練習を工夫している。 【思考・判断・表現】
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・学習シートを活用して本時を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習シートに記入できているかを確認する。 	

【本時の目標】 「映像や助言を活用して、「倒立前転」の課題を解決しよう！」

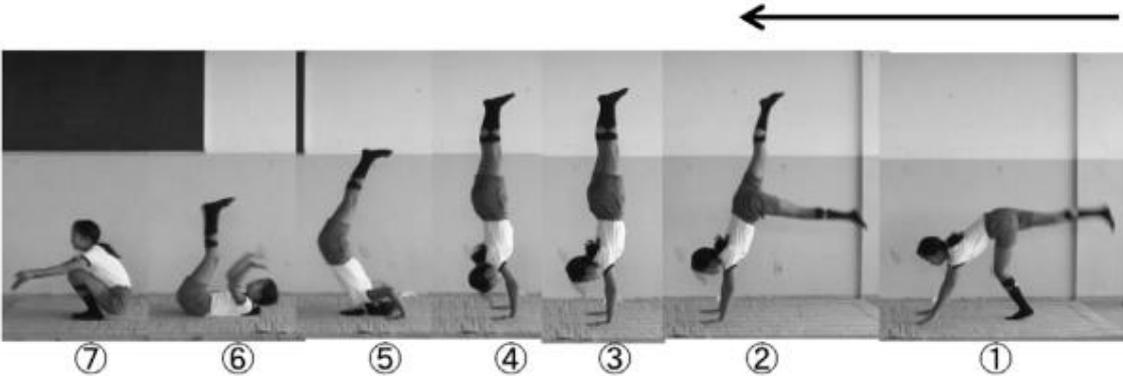
1 自分の技の映像をチェックし、見本演技と比較しながら、互いの改善点を話しあってみよう。

【自分の演技について、協議の中で出てきた意見やアドバイス】

- ・
- ・
- ・



2 自分の演技の課題点を挙げてみる。（下の連続写真に印をつけ、改善したい動きを記入しよう）



【改善したい点】

- ・



3 課題を克服するために、「どこを意識するか」「どういった練習方法に取り組むか」

- ・



4 本時の振り返り（まとめ）

授業前の習熟度「 」 ⇒ 授業後の習熟度 「 」

○良くなった点 ...

▲残った課題 ...

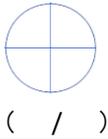
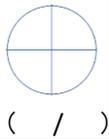
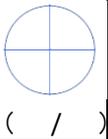
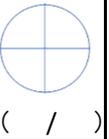
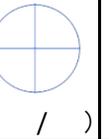
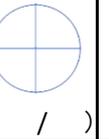
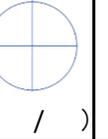
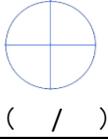
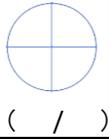
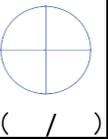
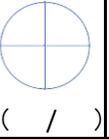
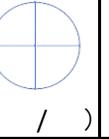
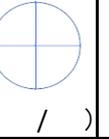
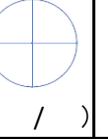
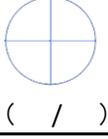
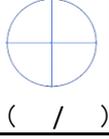
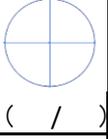
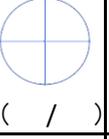
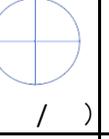
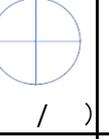
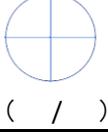
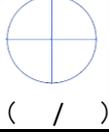
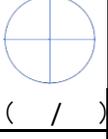
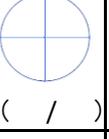
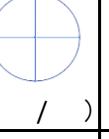
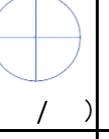
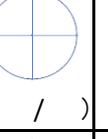
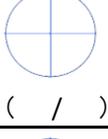
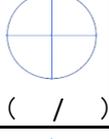
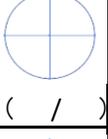
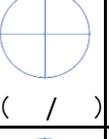
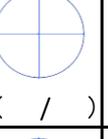
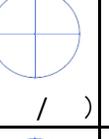
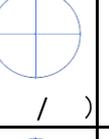
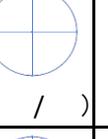
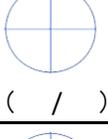
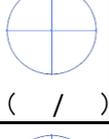
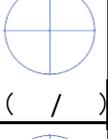
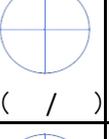
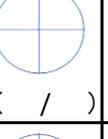
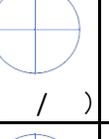
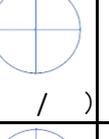
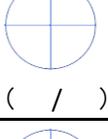
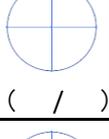
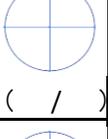
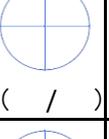
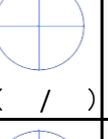
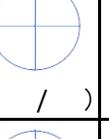
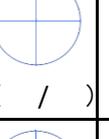
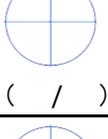
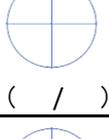
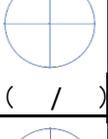
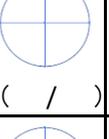
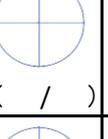
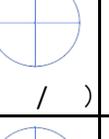
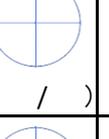
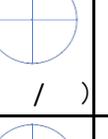
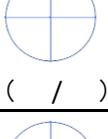
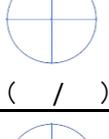
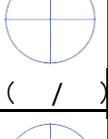
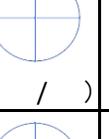
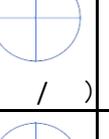
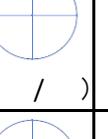
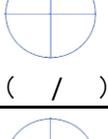
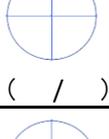
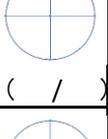
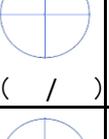
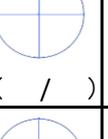
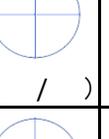
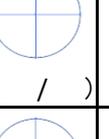
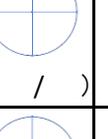
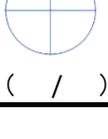
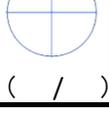
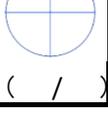
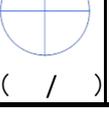
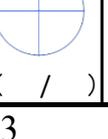
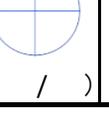
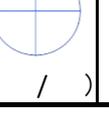
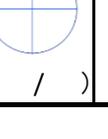
◇次回の授業に向けて ...

マット運動学習カード【習熟度チェック】

組 番 氏名

【カード活用方法】・授業で技を練習した日に、その「出来映え」と「日付」を記入しておく。
 ・「出来映え」は、4段階で評価し、4分割の円を黒く塗りつぶしていく

- 「1」 = 技の動きができない、途中で終わってまう 「2」 = 技の動きが6～7割できている
 「3」 = 技の動きが8～9割できている 「4」 = 細かい点の出来映えもよく、完璧にできる

技名	習熟度(全8回分)								メモ
前転	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	
後転	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	
開脚前転	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	
開脚後転	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	
伸膝後転	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	
跳び前転	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	
伸膝前転	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	
倒立前転	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	
後転倒立	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	
側方倒立回転 (側転)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	
ロンダート	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	 (/)	

【授業研究会の記録】

期日	令和6年11月22日（金）	記録者	村上恵美子	授業者	内藤慎平
指導助言	： 金森 道 指導主事（総合教育センター）				
司 会	： 淡路直明				
参加者	： 齊藤博史、猿田美樹、富田和樹、淡路直明、内藤慎平、村上恵美子				
1. 授業者より	<p>この時期はマット運動とダンスの選択となっており今日は男子のマット運動を観てもらった。毎年基本的な技を練習させていきながら最後はそこから5つ技を選び発表会を行う。chromebook を活用して倒立前転という習熟度が低いけど頑張ればもう少し良くなるのではないかと課題を選び取り組んでみた。首、肩など怪我をする可能性があるのが危ないシーンの補助で簡単に手を離して怪我をさせない指導をしなければならなかった。昨年までは壁に向かって倒立する方法だったが今年は自分で調整しながら足から上っていく方法に変えた。ただ倒立前転の動きでいくと自分から壁に向かっていく方が良い。見本となる演技とchromebook で撮影した自分の演技を比べそのギャップから課題を探せば良いと思ったが、本格過ぎた見本映像だった。来年は今年の上手な子のものを使うともう少し親近感が湧くのではないかと思った。このクラスの授業態度は良好であり7割が運動部、残りの3割の中にも運動神経の良い子がおり、運動が苦手な子も前向きに取り組んでくれている所を大事にしながらやっていきたい。</p>				
2. 協議	<p>◎良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ chromebook を見ながら研究し合い楽しくやっているこの生徒達からは自ら学ぼうとしている姿が見えた。 ・ 準備運動では掛け声に合わせて全員が声を出し、みんなでやろうという雰囲気ができている。普段の躰もきちんとされていると感じた。 ・ 振り返りを丁寧に行っており、次の目標がまた立てやすいと感じた。 ・ 上手にできる生徒にもより綺麗に見えるようにアドバイスをしていた。 ・ 習熟度チェック表で色塗りができると自分がどこまで進んでいるのかが分かるので参考にしたいと思った。 ・ 安全面に非常に注意されていて丁寧な指導であった。 ・ 下手な子を冷やかす生徒がいなかった。 ・ 自分の映像を見て修正できるのは非常に良い。ITC 活用で使えば使うほど効果はある。映像を見るのと自分の体を動かすのはイコールにはならないというのがあると思うのでそこをどうやって教えていかなければならないのかなと思うので非常に授業として良かった。 <p>◎改善点など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 少し力不足で2人補助が必要な子もいる。ほとんどできるので1人でも良いが気になる。 ・ 三点倒立の手を着く位置がバラバラ。危険な種目になってきているので最後に体調、怪我の確認があっても良いのではないか。 				

・寒い時期のマット運動は適切な時期なのだろうか。体が硬直して怪我が多くなるなのでいつの時期が良いのか気になった。

・マットで痒くなる子はいないのか。マットの管理はどうされているのか。健康面も心配。

・見本動画と生徒撮影の向きを同じにした方が同時に観たときにわかりやすいのかなと思った。

◎質疑応答

・マットの衛生面に関して

ダニやホコリを気にしたり痒くなったなどの生徒がいれば消毒などの対策をを考えるが、今のところ健康被害問題はない。

・補助人数など

下手な子を冷やかす事はないわけではないのでその辺は指導しながら行っている。今日は皆がある程度できるので撮影者、補助、演技者の体格を見て3人グループとした。

倒立の入り方、関節を入れるタイミングなど映像の模範演技が綺麗すぎた。

3. 指導助言

・真面目で一生懸命取り組む生徒達で指導が行き届いている。

・目標が書かれたこのシートは工夫されていて面白いが「映像や助言を活用して「倒立前転」の課題を解決しよう！」だと本当に全員解決しないと目標に対する評価が厳しいのではないか。思考・判断・表現なのであれば、どうしたらいいのだろうと考えるような感じで評価した方がいいのではないか。目標を少し変えるだけで生徒の達成具合が違ってくるのかなと思っていたりした。

・授業規律が非常に良かった。見学の生徒にも役割を与え「する・見る・支える・知る」四つの観点での支えると言うところの役割を与えていて素晴らしい。

・見本動画との比較は良かったがタブレットで撮るところが逆だったらなお良かった。ただ用意された学習シートは生徒が撮った角度と一緒にあったのでこちらのシートと合わせながら確認しても良い。コマ送りの7項目になっているのでコマの何を見たら良いのかを聞き、それをポイントに仕立て上げるとつまずきポイントの解決になると思う。

・小さいマットがあれば壁伝いに歩いて上っていく方法はすごく良い。壁をポンと蹴って前転させると倒立前転になる。ただ横広のマットなので前転すると体育館の床に行ってしまう。それを解決するような何かがあればそれぞれの習熟度に応じた倒立前転の手立になると思われる。

・学習シートを見ると1時間何をやったか分かるようになっている。「助言を活用して」と書いてあるので仲間からのアドバイスを書く欄があると評価に役立つと思う。

・指導と評価の一体化というところがすごく言われている。知識・思考・判断・表現はその日のうちに評価。技能・主体的に学習に取り組む態度は長期的に見たところで評価。

素晴らしい授業でした。是非このまま良い発表会に繋がるように頑張ってくださいと思います。

農業（農業と環境）学習指導案

日 時 令和6年11月22日(金)6校時
 場 所 1年B組教室
 クラス 1年B組(生物資源科)
 使用教科書 農業と環境(実教出版)
 指導者 森合慎一郎

1 単元名 第3章 栽培と飼育の基礎 3 作物の生育を支える土

2 単元の目標

作物の栽培において土の役割を理解し、堆肥散布や石灰散布、耕起などの実習を通して、土の維持管理をしていく能力と態度を身に付けることができる。

3 生徒と単元

単元観… 透水性比較実験をとおして、良い土の条件を考えさせることができる単元である
 と考える。

生徒観… 農業に興味のある生徒が多く、意欲的に取り組むことができる。

指導観… 土の透水性が作物の栽培にとって重要であることを指導をしたい。また、透水性実験を通して、仲間と協働して答えを導くことの面白さを経験させたい。

4 指導と評価の計画(10時間)

配当時間	ねらい・学習活動 (○は、ねらい)	評価規準・評価方法		
		知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
3 h	1 作物栽培と環境 ○： 環境条件により様々な栽培管理があることを理解できる。 2 作物の生育と大気環境 ○： 作物栽培に関わる環境の要素を理解できる。	作物をとりまく環境条件について理解できた。 評価方法・小テスト		
2 h	3 大気環境の調節 ○： 大気環境の重要性を理解し、栽培管理の工夫や○○対策を考えることができる。		気候が栽培に与える影響を理解した上でどのような対策が必要なのか考えることができた。 評価方法・発表、定期考査	
3 h	4 作物の生育を支える土(本時2/3) ○： 土壌の重要性を理解し、栽培に最適な土を選ぶことができる。	土壌の物理性・化学性・生物性を理解している。土の維持・管理に必要な作業が理解できた。 評価方法・振り返りシート記入	栽培に適した土を選ぶことができる。 良い土の条件を考えることができた。 評価方法・グループワーク	
2 h	5 作物をとりまく生物 ○： 作物は様々な生物が生息する中で育っていることを理解できる。		圃場を観察し、害獣や病気から守るためにどのようなことが必要か考えることができた。 評価方法・振り返りシート記入	仲間と協力して話し合うことができた。(フィールドワーク) 評価方法・学習態度

5 本時の計画

(1) 本時の目標 (ねらい) 土壌の重要性を理解し、栽培に最適な土を選ぶことができる。

(2) 展開

	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> 前時の復習と本時の学習の確認をする。 実験器具の確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の内容をスライドで振り返る。 学習に必要なプリントが用意されているか教員が確認する。 生徒の実験器具が揃っているか確認する。 	
展開 38分	<ul style="list-style-type: none"> 実験方法等の説明 仮説を立てる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 作物の栽培に最適な土とは？ </div> <ul style="list-style-type: none"> 班毎の透水性比較実験 (5種類の土壌の比較) 実験結果の確認 考察 各班毎の発表 	<ul style="list-style-type: none"> 実験方法やタイマーの使い方を明示する。 手順通りに実験が行われているか様子を確認する。 班毎に協力して実施できているかを確認する。 結果をプリントに書くように指示する。 各班毎に、結果をもとに仮説が正しいか考察させる。もし仮説が間違っていた場合、なぜ、間違っていたのか考察させる。 積極的に発表することができるように穏やかな雰囲気作りを意識する。 他班の発表をプリントに記入させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 異なる土壌を用い、透水性の比較実験から土のしくみの違いを把握し、どの土が栽培に適しているのかを示すことができる。(プリント)
まとめ 7分	<ul style="list-style-type: none"> まとめ 次時の学習の内容の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の授業で学んだことをまとめ、作物の栽培環境を整えることが大事か説明する。 	

組 番 氏名 _____

● 土性区分を書いてみよう! (前時の復習)

粘土と砂との割合の感じ方	ザラザラとほとんど砂だけの感じ	大部分(70~80%)が砂の感じで、わずかに粘土を感じる	砂と粘土が半々の感じ	大部分は粘土で、一部(20~30%)砂を感じる	ほとんど砂を感じないでヌルヌルした粘土の感じが強い
分析による粘土	12.5%以下	12.5~25.0%	25.0~37.5%	37.5~50.0	50%以上
区分					
簡易的な判定法	固めることができない 	固めることはできるが、棒にはできない 	鉛筆くらいの太さにできる 	マッチ棒くらいの太さにできる 	コヨリのように細長くなる。 

少量の水で湿らし、指の感じによって粘土と砂の量を判定する

☆本時の内容：透水性比較実験

☆本時の目標：

◎実験方法

- 1 4種類の土を準備する。ペットボトルに番号をマジックで書く。
- 2 コーヒーフィルターをペットボトル上部に装着し、下部と合体させる。
- 3 コーヒーフィルターの中に土を入れる。**どの容器にどの土を入れたのか覚えておくように。**
- 4 ペットボトルに2000mlの水をゆっくり注ぐ。
- 5 その水を土の中心へ目がけて注入。
- 6 30秒計測し、どのくらいの水が落ちたのか比較する。
- 7 この作業を4回(種類)繰り返す。

☆仮説を立てよう! 下に番号を書いてみて!

水が多く落ちたのは > > >

☆実験結果

区分	①	②	③	④	⑤
土の種類					
水の落ちた量					
順位					

GW① この中で野菜の栽培に適している土はどれ？

GW② その理由を明確に書いてください。

振り返り

① この実験で自らが疑問に思ったことを書いてみてください。

② この授業の感想を書きましょう。

【授業研究会の記録】

期日	令和 6年11月22日(金)	記録者	鎌田 いずみ	授業者	森合 慎一郎
指導助言：岸 弘昭教頭					
司 会：今藤 暁子					
参加者：佐藤 睦子・安田 信祐・百瀬 重夫・高橋 日向・秋本 元輝・高橋 佑輔					
1. 授業者より					
<p>初任から2年が過ぎ、授業の質を上げていきたいと思っていた。このような機会があつて良かった。教える技術、農業の知識もまだまだであるが、生徒の穏やかな雰囲気助けられている。本字の授業では、最後にキーワードの保配水を生徒の口から言ってもらえて良かった。実験、場所、器具等は改善の余地があると思う。</p>					
2. 協議					
◎良かった点					
<ul style="list-style-type: none"> ・最後に考察をさせていて良かった。 ・土を持ってこさせることで、今日の授業への興味関心を持たせることができた。 ・実物を教材にするとわくわく感が生まれる。生徒との信頼関係が構築されているから ・授業の流れがわかりやすかった。 ・生徒が素直に意見を言い合える雰囲気をつくっている。 ・仮説を立てることで生徒同士で主体的に考え、動いている。 ・男鹿なしの話で興味関心を持たせた。 ・実習と連動してできる授業だと思う。 ・明るいクラスで生徒同士や先生とのコミュニケーションが活発。 ・適した土について、一年生にはわかりやすいやり方だった。 ・同じ条件にするために生徒たちが考えて工夫していた。実験を見ていて勉強になった。 ・仮説を立てるのは良い。課題研究に繋がる。大事な前振り。 ・自分は今日の内容を説明し目標を示すが、仮説を立てた後に本時の流れについて説明していたので、場合によってはこのような流れがあつても良い。 					
◎改善点					
<ul style="list-style-type: none"> ・ABCの土が、それぞれどこから持ってきたものか説明があれば良かった。 ・持ってきた人たちにどこの土か発表させても良かった。 ・コーヒーフILTERの使用方を説明して、誰がやっても同じ結果になるようにした方が良い。 ・野菜によっても土が違うので、絞った方がよい。生徒の探究心を満足させるために紙コップだとか、同じものを使った方が良かった。 ・まとめの板書やスライドがあつた方が良かった。 ・金農の土はどんな土なのか説明があれば良かった。 ・土の量、ペットボトルの大きさ、水の止め方など一定でないので正確には結果が出せない。 ・プリントを配る時間もったいないと思った。 					

- ・板書の書き順間違があった。
- ・実験では生徒たちの水の止め方に戸惑いがあったので、水の量に誤差が出た。
- ・野菜用土とあえて書いたのか。・・・パッケージを見て、はたして本当かと考えて買ったり、使ったりできるようになってほしいのであえて書いた。

3. 指導助言

この研究会は、他のクラス、他教科などいろいろな視点から学ぶことができる良い機会である。言いたいことは、参観した先生方が述べてくれたが、疑問に思ったのは、なぜあのタイミングで、川砂、野菜用土、コケ土と書いたのか。・・・（答えを引き出すための一手。保水配水を出させるために出した。4種類目の土は興味を抱く入口になるかと思いついてこさせた。結果は変わって良いと思った。）比較実験であれば、同じ条件でなければならない。なぜ、仮説通りいかなかったのか考えて。「保水配水性は大事だけど、保水性が必要ないものもある。」など栽培する野菜によって異なることにも触れ、実習に生かせればよい。

農業（食品流通）学習指導案

日 時 令和6年11月22日(金) 6校時
 場 所 食品流通科教室
 ク ラ ス 2年F組(食品流通科)
 使用教科書 食品流通(実教出版)
 指 導 者 佐藤 旭浩

1 単元名 第3章 食品流通のしくみ 第2節 食品流通のしくみ

2 単元の目標

- (1) 食品の流通とそれを担う関連業者について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
- (2) 食料生産と食品の流通に関する課題を発見し、科学的根拠に基づいて創造的に解決する。
- (3) 食品流通における卸売市場の働きについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。

3 生徒と単元

「単元観」…卸売市場の役割と担う機能を学ぶことで、食品流通の社会的機能に関する知識を身に付けさせる。

「生徒観」…男子12名、女子20名の構成である。非農家の出身生徒が多く、比較的に大人しい生徒が多いため、単元に対する興味関心を高められるような工夫が必要である。

「指導観」…ICT機器やプレゼンテーションソフトを活用した説明を行い、食品の流通過程を理解できるように指導を実践する。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
食品の流通過程に関する基礎的な内容を理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	卸売市場の働きにおける学習で身に付けた知識・技術から課題を発見し、科学的根拠に基づいて創造的に解決している。	卸売市場の働きについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

5 指導と評価の計画（本時3／5時間）

時	学習内容	評価規準・評価方法		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1～2	食品流通の特徴	商品として取り扱う食品の特徴について理解できる。		農産物を工業製品と比較した場合の特徴について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
3～4	食品流通のしくみ	卸売市場に関わる事業者の機能について理解できる。	卸売市場の働きを調べる活動を通して、食品流通における必要性や課題を発見することができる。	卸売市場の働きについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
5	価格の形成と流通経費		価格決定のしくみを通して、需要と供給の関係性を発見することができる。	価格決定について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

6 本時の計画

(1) 本時の目標 「 卸売市場の働きを理解し、説明できる 」

(2) 展 開

	学習活動	指導上の留意点	評価場面・評価方法
導入 7分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本日の学習内容を提示する。 プレゼンソフトを活用して卸売市場について説明する。 	
展開 25分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を提示する。 	
	卸売市場は、どんな働きをしているのか？		
	<ul style="list-style-type: none"> スライド作成の手順を確認する。 グループで、スライドを作成する。 各グループで作成したスライドを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> スライド作成の手順を説明する。 机間指導を行い、進捗の様子を観察して適宜助言する。 聞き手側の生徒にワークシートの評価欄へ記入するように指示する。 発表者の意見に対して、共感する。 	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 発表・スライド</p> <p>【思考・判断・表現】 ワークシート (評価欄)</p>
まとめ 8分	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容を整理・確認する。 評価と感想を記入する。 次時の学習内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 発問のポイントを整理して確認する。 机間指導を行い、記入状況を確認する。 Google フォームを活用して評価と感想を記入させる。 	<p>【思考・判断・表現】 ワークシート・ Google フォーム</p>

日付： / クラス： 氏名： _____

本時の目標

「 _____ 」

 卸売市場は、どんな働きをしているのか？ 



- ・
- ・
- ・
- ・

※先生から指示があるまでは記入しないで！

・最近では…

- ・
- ・
- ・

メモ ※スライド作成の時に活用しても OK

Large empty rounded rectangular box for notes.

裏面へ！

◎他のグループの発表を聞いて

グループ 番号	全体の組立て(構成)は どうだった？	発表の態度(話し方など)は どうだった？	発表内容で 注目した点は？
①			
②			
③			
④			
⑤			
⑥			

◎評価 ※評価は Classroom へ

・先生から

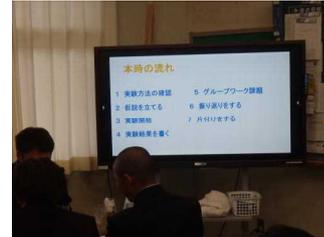
【授業研究会の記録】

期日	令和6年11月22日（金）	記録者	齊藤 潤也	授業者	佐藤 旭浩
指導助言：和泉有紗 司 会：山崎 隆之 参加者：田口健一 山崎隆之 齊藤潤也 和泉有紗 高橋天磨 佐藤星					
1. 授業者より 普段から行っている Google スライドを用いた授業を行った。研究授業ということもありグループワークを取り入れた。反省点としては時間配分、まとめに入れなかったため内容を精選したい。全体的にもう少し流れを意識して授業を展開したい。					
2. 協議 <良かった点> ①ICT 機器の活用 Google スライドを用いての授業であったが、教員、生徒が普段から使い慣れているため全体的にスムーズな授業展開であった。また、導入部分では鍋の材料から考えるなど生徒が親しみやすいようにスライドが作成されていた。また、流通経路についても振り返りしやすいように多くのスライドがあるなど生徒の理解しやすいように工夫されていた。 ②生徒の授業態度 調べる・スライドを作る・発表する・聞く・メモをとるなどメリハリを持って生徒が授業に真剣に取り組んでいた。発表の場面では生徒との信頼関係があるため自信を持って生徒が全員に向けて発表していた姿が良かった。 <改善すべき点> ①時間配分 授業者の反省にもあったが内容が盛りだくさんでまとめに入れなかった。授業のどこに焦点をあてるかで内容を精選して1時間の授業に取り組んだ方が良い。今回であればグループで発表し、共有する場面だけでも成立するのではないかという協議に至った。 ②思考を深める場面、発表の仕方の工夫 研究授業でグループワークにしがちであるが各自調べたことをまとめるでもよかったのではないか。スライド作成・発表のルールを明確化することで何をすればいいかがわかり全員がしっかりと取り組めるという意見があった。また、発表者に対してのコメントやフィードバックがあることで思考を深めることができる。					
3. 指導助言 Google スライド等の ICT 機器を活用した授業であったが、普段から教師と生徒が訓練されている授業であった。今後も ICT 推進リーダーとして様々な教員に伝授してほしい。グループワーク等で調べたことを発表する場面があったが信頼関係が構築されており発表しやすい環境であった。指導案については今後作成する場面があると思うが文科省のホームページや最近の傾向があると思うので対応してほしい。内容を精選して自信を持って今後も授業に取り組んでほしい。					

保健体育



農業（農業と環境）



農業（食品流通）



2 個人研修

実践的指導力研修講座を受講して

金足農業高校 教諭 齊藤 潤也

1. 研修の目的

この研修は学校教育目標に基づいた教育活動への意識を高め、学習指導やホームルーム経営、生徒指導等についての実践的指導力を身に付けることを目的としている。

2. 秋田県総合教育センターでの研修

I期 令和6年5月17日(金)

- 保護者対応と連携 秋田県総合教育センター 指導主事 高橋真理奈先生
- 社会に開かれた教育課程の実現に向けて 生涯学習課 主任社会教育主事 田口圭先生
- 学校組織の一員として一学校教育目標とホームルーム経営―
秋田県総合教育センター 指導主事 小西一幸様
- 授業づくりの充実に向けて① 秋田県総合教育センター 主任指導主事 部谷晴子先生

II期 令和6年9月13日(金)

- 授業づくりの充実に向けて② 秋田県総合教育センター 主任指導主事 部谷晴子先生
- 授業づくりの充実に向けて③ 秋田県総合教育センター 主任指導主事 部谷晴子先生

おわりに

秋田県総合教育センターでの研修は回数が少なかったものの非常に有意義なものであった。5月17日に行われた研修では、はじめに保護者対応と連携の講義・演習を行った。この問題は教員側として大きな課題であり私も含めて苦勞している先生方も多い。様々なケースについてロールプレイングを行った。その中で大切だと感じたことは話の聴き方や丁寧な対応だということが先生方との話し合いでまとまった。また、何か問題が発生してからの対応ではなく学級通信の活用や保護者面談等を行うことで信頼関係を築いていくことも大切だということを改めて確認することが出来た。最後にこの問題は一人で抱え込まずに様々な先生と連携し、組織的に対応し素早い対応等を心掛けるようにする必要があるということという結論に至った。次に社会に開かれた教育課程の実現に向けての講義・演習を行った。いくつかポイントがあったが、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と地域で共有することが大切であることがわかった。金足農業は地域に根ざした農業高校であり果たす役割は大きく、農業高校ならではの取り組みを地域と協同しながら発信していくことで生徒が地域人材として活躍できるのではないかと感じた。学校教育目標とホームルーム経営の研修・講義では学校の教育目標や学科の教育目標を意識しながら目標を立てる必要があると感じた。また、進路実現を意識して目標を立てることで生徒が主体的に学校生活に取り組めるということも学ぶことができた。授業づくりの充実に向けて①では主体的で対話的で深い学びの実践に向けて生徒の細かい気づきや発見を見逃さず拾ってあげることを意識すること大切であると改めて感じた。また、授業では教員側は授業の流れや形式に意識がいきがちであるが、生徒の自由な発想や発言を大事にすることで信頼関係を築きながら授業を展開できるという話があった。9月13日に行われた授業づくりの充実に向けて②・③の研修ではそれぞれの高校で実践した授業の動画を見ながら意見交換をした。農業だけではなく商業や情報の先生方もおり、様々な角度から自分の授業を振り返ることができたため、この研修で得たことをもとに今後の授業で改善していきたい。また、教科「情報」の先生方もいたため ICT 機器の使い方について話題になった。使うことが目的になってはけなく、使用することで生徒が学びやすいようにしなければならないという結論になった。今回の研修だけでなく得たものを今後学校で活かしていけるようにしていきたい。

実践的指導力習得研修（採用3年目）を終えて

教諭 森合 慎一郎

1 はじめに

実践的指導力習得研修の3年目は総合教育センターでの研修はなかったが、自ら校内研修の予定を立て、マネジメント能力・生徒指導力・教科等指導力の3つの項目について研修に務めた。教科等指導力について校内の授業研修を行った。

2 授業研修

作物の根の成長には、酸素・水がなければならないことを理解した上でどのような土壌が野菜の栽培に良いのか考えることを目的として実験を通してグループワークで対話しながら自分の答えを導き出すことを意識した授業を行った。

単純に「水はけが良い＝良い土」ではないことを気づけるような授業の進め方をあらかじめ決めていた。仮説を立てさせ、出た結果の理由も考えられるようにというねらいをもって臨むことができた。

3 協議の内容

1) 興味・関心

生徒に土を持って来させる工夫は興味関心をもつ良いきっかけになる。実物を教材にするとわくわく感が生まれる。

2) 実験の内容と目的

野菜によっても土が違うので、絞った方がよい。生徒の探究心を満足させるために紙コップだとか、同じものを使った方がよかった。土の量、ペットボトルの大きさ、水の止め方など一定でないので正確には結果が出せない。

3) 考察

実験の統一性がないため、考察にばらつきが出てしまう。比較実験であれば同じ条件でなければならない。保水性は大事だが、保水性が必要ないものもある等、栽培する野菜によっても異なることに触れた方がよい。

4 研修の感想

この度の授業研修について授業を見学し、協議に参加してくださった先生方に感謝します。また、指導助言してくださった岸弘昭教頭先生には的確なアドバイスをしていただきました。この度の授業では実験における仮説から考察することができるようになるかということに重点を置きました。まだまだ生徒に助けられていると感じましたし、実験の準備も万端とは言えませんでした。先生方のアドバイスの通り、実験の統一性が欠けていたのが反省する大きなポイントでした。教師が生徒を導きたい方向性を定めてから授業を作るべきだと改めて感じました。

実践的指導力向上研修講座を受講して、学校組織の一員として自覚を持って、働くことが必要であると感じました。教科だけでなく、学校や地域社会に求められることを考え、これからの学校教育をよりよいものにするために、自分自身のスキルや知識を高めていきたいです。

中堅教諭等資質向上研修講座を受講して

教諭 和泉 有紗

この研修は、教育に関し相当の経験を有する高等学校の教諭等に対し、教育公務員特例法第24条の規定に基づき、現職研修の一環として研修を実施し、その教育活動その他の学校運営の円滑かつ効果的な実施において、中核的な役割を果たすことが期待される中堅教諭等としての職務を遂行する上で、必要とされる資質の向上を図ることを目的としている。総合教育センターでの研修、選択研修、授業研修は次のとおりである。

●令和6年6月25日（火）

中堅教諭等資質向上研修講座（高等学校）Ⅰ期 於：秋田県総合教育センター
教育公務員の服務、学校の危機管理、質の高い授業研究を継続的に進めていくための方略

●令和6年8月2日（金）

中堅教諭等資質向上研修講座（高等学校）Ⅱ期 於：秋田県総合教育センター
高い専門性に基づく教科指導の充実と推進

●令和6年8月5日（月）・6（火）、9月5日（木）

中堅教諭等資質向上研修講座（高等学校）「選択研修」於：潟上市、秋田市、北秋田市

●令和6年9月4日（水）

中堅教諭等資質向上研修講座（高等学校）「授業研修」於：秋田県立大曲農業高等学校
授業実践、授業参観、農場見学、研究協議

●令和6年9月19日（木）

中堅教諭等資質向上研修講座（高等学校）Ⅲ期 於：秋田県総合教育センター
人間としての在り方生き方を考える道徳教育、いじめの理解と対応、気になる生徒の事例を通じた具体的対応の理解

●令和6年10月17日（木）

中堅教諭等資質向上研修講座（高等学校）Ⅳ期 於：秋田県総合教育センター
学校全体で取り組む情報教育、学校組織の一員としてーキャリアデザイナー、これからの学校教育

今回は研修の中でも特に意義の深いものであった、むつみ造園土木株式会社様での「選択研修」について報告する。「選択研修」とは、長期休業中に2日または3日間、社会体験研修を行うもので、研修教員が自ら社会体験を行う研修先を選択し、異なる職種の体験を通じて教員としての視野を広げたり自らの専門性を高めたりして、教職員としての心構えを再認識するとともに、個人の適性に応じて得意分野を伸ばすなど自らを向上させ、機会を捉えて担当する児童生徒にその成果を還元することを目的として行わ

れる。

【研修日程】

令和6年8月5日（月） 研修場所：天王多目的健康広場「グランパスくらかけ」（潟上市）

①ブルーシート洗浄 ②芝生散水

令和6年8月6日（火） 研修場所：秋田県立北欧の杜公園（北秋田市）

①休憩所・トイレ清掃 ②園内巡視

令和6年9月5日（木） 研修場所：秋田県立小泉潟公園（秋田市）

①講話（指定管理課 泉田 幸仁 氏） ②園内巡視

【成果とまとめ】

社会人に求められる資質として、責任をもってやり通し、より良いものをつくり上げようとする熱意、現場に応じて柔軟に対応できる適応力、多様な人と円滑に関係を築くコミュニケーション能力、常に学び、成長し続けようとする向上心等が挙げられる。これは造園業に限らずどの職業にも当てはまることであるが、上手いかない時や壁にぶつかった際、支えになるのが「造園が好き」「この道でやっていきたい」という強い意志、揺るがない心があるかどうかであると考え。このような“根っこ”の部分がしっかりと育っていれば、学生から社会人という立場の変化で生じる大きなギャップにも対応できるのではないだろうか。当然のことながら、入社前に企業のことを良く知り、ミスマッチがないよう自己分析や業界・企業研究、事前見学・インターンシップ、社会人になるにあたっての心構え・ビジネスマナー等は必要になるが、やはり“根っこ”が揺らいでしまつては、花を咲かせることはできない。この「造園」に対する意志や心を育てるためには、いかに高校時代に「造園」の面白さ、奥深さ、必要性、やりがい、素晴らしさを感じてもらえるかが大切であると考え。そのためには、普段の授業や動機付けがとても重要になってくる。学科一丸となって、「造園技術者」としてのキャリアのベースを担うカリキュラムについて検討していかなければならないと感じた。むつみ造園土木様では、現在「ペアシステム」により、新入社員が気兼ねなく先輩社員に相談できる体制をとることや部署の統合により適切な人材配置が進められているそうである。私たち農業教員が高校現場でできること、そして企業側の協力を得てできることがあるため、それぞれの組織同士が連携し、可能な限りフォローアップ体制を整えていくことで、現場で長く活躍できる人材育成を図っていけるのではないかと考える。

今回の研修を通し、現場作業やスタッフの方々からお話を伺ったり、話し合ったりする中で、研修目的であった「即戦力となれる人材の作業姿勢や知識・技術、就職への接続をよりスムーズなものとするための知見」を得ることができた。この学びを普段の教科指導や進路指導、学級経営等に生かし、「造園」を愛し、「造園」で自己実現を図り、「造園」を通して社会に貢献しようとする人材の育成に励みたい。



8月5日（月）①の様子



8月5日（月）②の様子



8月6日（火）②で使用した作業車

特定課題研究レポート

所属校	金足農業高等学校	職・氏名	教諭 和泉 有紗														
研究内容	A：本県の教育課題に関する研究 B：マネジメントに関する研究 C：生徒指導に関する研究 D：教科指導に関する研究 E：道徳教育に関する研究 F：特別活動に関する研究 G：総合的な学習の時間に関する研究 H：特別支援教育に関する研究 I：その他 (選択したものに○を付けること)																
研究テーマ	若年者ものづくり競技大会【職種：造園】における指導について																
1 研究の概要 ●はじめに 造園緑地科での指導において、欠かすことのできないのが造園技術指導である。今回中堅教諭等資質向上研修を行うにあたり、若年者ものづくり競技大会【職種：造園】の大会結果から、採点基準と入賞のボーダーラインの関係性を分析し、その分析結果に基づき、今後自分自身や同科職員の技術・指導力向上を図るとともに、生徒の意識・技術力向上に結び付けるための研究を行った。 ●若年者ものづくり競技大会について 企業等に就業しておらず、職業能力開発施設、工業高等学校等において、技能を習得中の原則20歳以下の若年者を対象として開催し、若年者に目標を付与し、技能を向上させることにより若年者の就業促進を図り、併せて若年技能者の裾野の拡大を図ることを目的とした大会である。 ●競技【職種：造園】について 競技は、時間内(3時間30分以内)に指定された区画内に施工図(資料図1平面図、図2断面図)に示される庭園を見栄え良く作庭し、その正確さ、速さ、完成度を競うものである。 (採点基準)																	
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2">採点項目</th> <th>配点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">作品採点</td> <td>正確さ(客観採点)</td> <td>15点</td> </tr> <tr> <td>出来栄</td> <td>70点</td> </tr> <tr> <td colspan="2">作業時間採点(経過時間に応じて減点)</td> <td>5点</td> </tr> <tr> <td colspan="2">作業態度採点</td> <td>10点</td> </tr> </tbody> </table>				採点項目		配点	作品採点	正確さ(客観採点)	15点	出来栄	70点	作業時間採点(経過時間に応じて減点)		5点	作業態度採点		10点
採点項目		配点															
作品採点	正確さ(客観採点)	15点															
	出来栄	70点															
作業時間採点(経過時間に応じて減点)		5点															
作業態度採点		10点															
●分析方法 第12回大会からの記録(新型コロナウイルスの影響により中止となった第15回を除く)過去7年分をまとめた資料表1から、得点と入賞のボーダーラインを明確にし、入賞・上位入賞の実現性を探った。																	
2 成果と課題 ●研究成果 資料表1の網掛部分は全員が入賞した得点帯、斜線部は一部が入賞した得点帯である。過去の金賞(厚生労働大臣賞)受賞者は80~90点台の得点であったが、60~70点台でも入賞(銀賞・銅賞・敢闘賞)を果たしている。また、出場者の約半数が入賞していることが分かった。しかし、実際は大会毎に出場者のレベルが異なり、年度によって入賞得点が前後することから、入賞と得点の相関関係は見られなかった。 今年度の得点分布から、本校出場者の成績は60点台であり、入賞ラインにはあと20点程度足りなかったと推察される。採点基準によると「出来栄」が全体の7割を占めており、ここに直結するであろう美的センスやバランス感覚、寸法や水平・垂直、表裏といった正確性、効率良く無駄がない作業態度、そして最も技術・時間を要する石張り技術を磨くことが重要であると考えられる。また、今年度金賞受賞者の作業態度から、石張り作業は力任せではなく、繊細さと根気強さが同時に求められることがよく分かった。今後の課題として、練習時間の確保、施工技術の習得、感性の高揚、そして練習を継続するためのモチベーション維持を特に重視して指導にあたりたい。具体的には、授業を通して様々なものや空間を五感で感じ“本物”に触れることで美しいと感じる感性・美意識に磨きをかけること、そして“本物”の技術に触れ、「この技術を身に付けたい」「この道で頑張りたい」という心に火が灯る経験をさせたい。 これまでの大会において、過去の入賞校として群馬県立勢多農林高等学校、奈良県立磯城野高等学校、三重県立四日市農芸高等学校が多かった。造園関係の教員ネットワークを生かし、これら入賞校との情報交換や研修会への参加等自己研鑽を通して指導者としての技術・指導力向上に努めることはもちろんのこと、地域と連携し、現場の職人(ものづくりマイスター等の専門家)の力をお借りしながら、次年度上位入賞を目指していきたい。 ●おわりに 今年度、職種造園において秋田県選手としては初めての大会出場となり、新しい道が切り拓かれたと感じている。今回の研究を踏まえ、次年度の大会出場・上位入賞に向け、そして将来造園業界で即戦力として活躍できる技術者を育成するために日々努めていきたい。																	

令和6年度中堅教諭等資質向上研修 特定課題研究レポート〈資料〉

表1

若年者ものづくり競技大会【職種：造園】における入賞データ

※第11回大会までは職種造園の開催がなかったため、第12回大会からの記録（中止となった第15回を除く）7年分をまとめた。

全員が入賞した得点帯：



一部が入賞した得点帯：



年度	開催県	金賞(厚生労働大臣賞)	銀賞	銅賞	敢闘賞	入賞者数	出場人数	100	～90	～80	～70	～60	～50	～40	～30	～20	～10	～0	平均点	
第19回	令和6年 群馬	1	1	3	7	12	24	0	1	2	18	7	0	0	0	0	0	1	65.8	
第18回	令和5年 静岡	1	1	2	3	7	15	0	0	0	3	8	4	0	0	0	0	0	59.3	
第17回	令和4年 広島	1	1	3	2	7	16	0	0	1	6	7	1	0	0	0	0	1	60.6	
第16回	令和3年 愛媛	1	2	3	3	9	21	0	0	0	9	8	3	1	0	0	0	0	61.9	
第15回	令和2年	新型コロナウイルス感染症の影響により中止																		
第14回	令和元年 福岡	1	3	3	3	10	20	0	0	1	7	5	6	1	0	0	0	0	60.5	
第13回	平成30年 石川	1	1	2	4	8	17	0	0	1	3	7	6	0	0	0	0	0	59.4	
第12回	平成29年 愛知	1	1	2	4	8	16	0	0	2	6	3	3	1	0	1	0	0	60.6	

図1

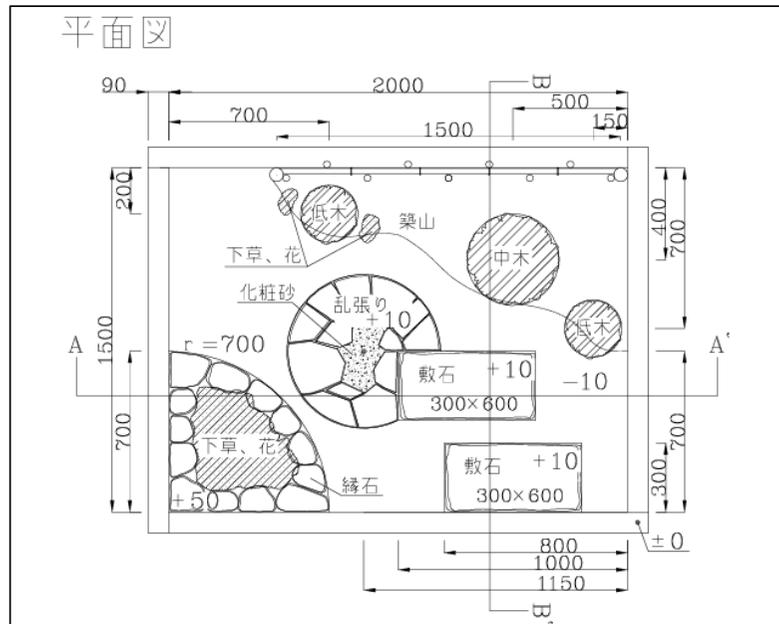
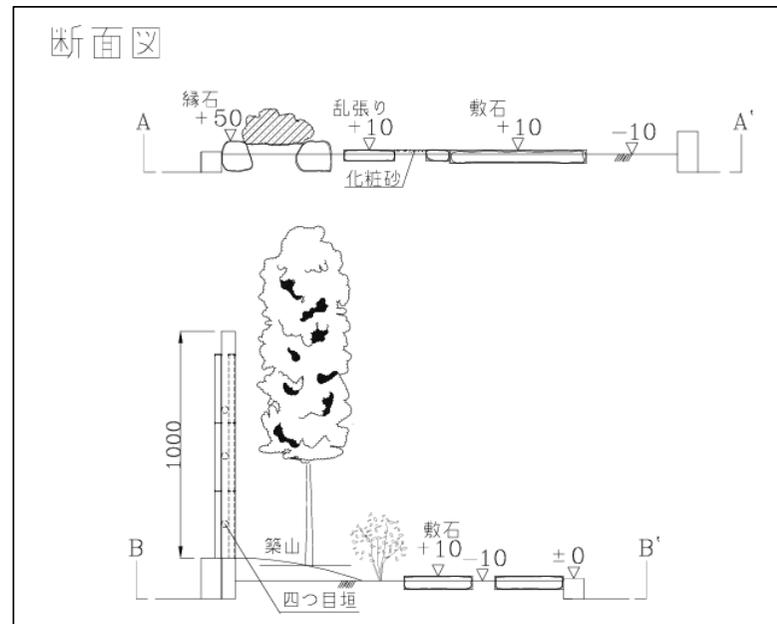


図2



3 不祥事防止研修

不祥事防止研修 一班（報告）

メンバー：佐々木真弓、佐藤睦子、●森合慎一郎、渡部玉緒

体罰防止について（奈良県教育委員会 HP から）

【事例】高等学校

Y先生の担任するHRは、活発で授業が進めやすいと評判であった。しかし、X先生の担当する数学の授業だけは私語が多くなり、大半の生徒が好きなことをやっている状態であった。特に、数学の苦手な生徒Aは、集中力を欠き、毎時間X先生から注意を受けていた。期末テストが迫ってきたある日、数学の授業中にいつもの調子で身勝手な発言を繰り返す生徒Aに対して、X先生が「静かにしろ。授業と関係の無い発言をするな。」と怒鳴ると、生徒Aは「おまえの教え方が悪いんじゃない。」と反抗的な態度をとった。そこで、X先生は「生意気なことを言うな。」と、生徒Aの顔を平手で叩いた。

(1) X先生のどのような行為が体罰や不適切な行為に当たるのか。

- ・怒鳴る行為
- ・平手で叩く行為

(2) X先生は、なぜ、体罰や不適切な行為を行ったのでしょうか。

- ・授業で生徒の掌握ができなくなり、生徒の反抗的な態度に感情的になってしまったから。
- ・普段から生徒Aに不満を募らせていたX先生が生徒Aの「おまえの教え方が悪いんじゃない」の一言に激昂し、不適切行為を行った。

(3) どのようにすれば体罰や不適切な行為を防ぐことができるのでしょうか。

※「体罰は、しない・させない」ようにするには、どのようにすれば良いのでしょうか。

- ・授業のルールの周知、担任の先生の協力。
- ・他の生徒の比較をやめる、集中力を欠く背景に着目する。
- ・アンガーマネジメントの習得

※「体罰は、必要ない」指導とはどのようなものなのでしょうか。

- ・対話を継続して生徒との信頼関係を構築し、言葉による行動抑制に注力する。
- ・生徒の主体性を育てる。
- ・生徒が行動を反省できるように叱る指導。

不祥事防止研修（5月）

部活動関係 事故防止研究会（1班） 淡路 直明 船山 毅 ○齊藤潤也 佐藤 旭浩

1. 秋田県の高等学校 事故発生件数

体育的部活動

R 3年度	R 4年度	R 5年度
1 0 7 5件	8 5 7件	7 6 9件

R 5年度運動種目別発生件数（上位5種目）

野球	バスケットボール	サッカー・フットサル	バレーボール	ラグビー
1 6 4件	1 6 3件	1 0 0件	5 3件	4 2件

2. 運動分類別の考えられる事故

(1) バットやボール等を使用し、原則接触が起きにくい運動

（野球、ソフトボール、テニス、バドミントン、バレーボール、卓球）

ボールや用具の操作に関連した顔面や手指のケガ、移動や着地の際の捻挫や骨折、仲間との衝突や深追いによる施設への激突等。

(2) ボールを介した接触が起りうる運動

（バスケットボール、サッカー・フットサル、ハンドボール）

人との接触時や着地時の転倒、壁への衝突や密集地帯での衝突事故、至近距離でボールが当たる事故。

(3) 人との接触が必須な運動（ラグビー、柔道・剣道・空手等の武道）

タックルを受けた際の転倒の仕方やタックルに入った際の接触回避等の技術が未熟な生徒の事故、体幹・頸部の筋力不足が一因となって起こる事故、武道の場合は技術や体力、筋力が不足している初心者の事故。不可抗力で起こる事故。

(4) 概ね用具を使用せず、個人で行う運動（水泳、陸上競技）

人に接触したとき、プールの底等に衝突した際の事故。転倒や足首をひねる等。

(5) 用具を使用し、個人か少人数で行う運動（体操、陸上競技、自転車、スキー等）

着地時の失敗、バランスを崩した際の用具への強打、投てき時の事故、用具操作のミス等。

3. 事故防止対策

事故防止の方法を具体的に提示する・正確な動作指導・活動環境の確認・体調の管理（疲労を考慮する）・生徒の能力に応じた安全な練習メニュー

4. その他

[熱中症予防情報サイト](#)の活用

事故は、5・6・7月頃に集中すると言われているようだ。新しい部員が入部してから、本格的な活動を開始するようになるのがこの時期であり、新入生部員が上級生部員たちと同じ練習内容に参加するようになるからだと思われる。

<参考資料>

令和6年度秋田県小・中・高等学校 学校体育担当者連絡協議会解説資料

【解説③】体育学習・体育的活動中における事故防止について

日本スポーツ振興センター発行「なくそう 運動部活動の事故」

部活動・スポーツにおける安全指導・事故対応の手引（日本体育大学）

不祥事防止研修 三班（報告）

メンバー：鎌田いずみ、和泉有紗、中田耀介、○小林晃

猥褻行為防止研究会

【事例】

進路指導をしていた女子生徒と携帯電話のメールで連絡を取り合うようになり、飲食をさせたり衣服等を買って与えたりするなどして関係を深めていった。当該女子生徒が進路先として強い興味を持っていた分野の企業を見学に行こうなどと言って旅行に誘い出し、旅行先で生徒と飲酒をした上、ホテルにおいて、同室に宿泊した生徒に対し、その意に反してわいせつな行為を行った。

（１）原因・背景

- 生徒と個人的なメール交換をしている
- 生徒と必要以上に個人的な接触を持っている
- 生徒（異性）と同室に宿泊した。

（２）不祥事発生の要因

- 教職員としてのプロ意識が欠如していた
- 公務員（人として）としての規範意識が欠如していた
- 職員が一人で仕事を抱え込み、周囲の協力を得ることができない雰囲気があったかもしれない

（３）発生を防ぐためには

- 生徒と１対１にならない
- 個人的なやりとりは絶対しない
- 行為を見たり、聞いたりしたことを見過ごさない
- セクハラ相談窓口の機能を高める

まとめ

不祥事は起こしてはいけないものですが、「人間は誰もが過ちを犯す可能性がある」ということも認識すべきです。他の職員が不祥事を起こしてしまったとき、「何でそんなバカはことをしたんだろう、私には関係のないことだ」と他人事のように思わず、高い規範意識を持つことが大切です。

人間は刺激がないと弛緩し、不祥事発生のリスクが高くなります。教職員が使命感、倫理観を高い意識で保ち続けていられるのは生徒たちの模範とならねばという意識や、保護者や地域の方々から常に見られているという緊張感です。しかし同じような日常が続くと、時にはこころの糸が緩んでしまいます。ですから緊張感を維持し続けるためには、定期的に自分自身に問いかけることが必要であり、教職員相互のコミュニケーションを活性化することが重要だと考えます。

不祥事防止研修（体罰防止） 2 班

佐藤和悦 安田大介 ○渡辺大貴 高橋日向

事例

陸上競技部に所属していて毎日やり投げの練習に励んでいたEは、陸上競技部顧問の過酷な練習や頭部を竹の棒ややりで叩くなどの体罰を受けていた。また、同顧問は、練習中により記録が出ないと「ブス」「おまえは使い物にならない。」などと発言することがあり、Eに対して、「おまえはバカだから。何度言ったらわかるんだ。やめろ。」「のらくらでくず」「心の中が腐っている。」などと言っていた。言われたEがそれに耐えかね、自宅で自殺した。

課題

- ・容姿に関する表現は、当然のことながら、陸上競技部の指導とは全く関係ありません。屈辱的な表現でしかないうえに、相手が思春期という多感な時期であることから、極めて不適切と言わざるを得ません。
- ・生徒の人格を傷つけ、自尊心を損なうだけの表現です。体罰は禁止されているので手は出さないが、口頭での指導は不適切な言葉を使用しても構わないという人権意識の低さは大いに問題があります。

対応

- ・まず、人を侮辱したり、人格を否定するような発言を繰り返す教職員、それを周りで見ていながら、その事に問題意識を感じない教職員がいた場合、その行為が人をどれだけ傷つけるかについて、十分に理解を深めるために、人権に関する研修を計画的に行う必要があります。
- ・複数顧問で対応し、指導時の言葉かけについて不適切な発言があった場合、互いに意見を交換したり、フォローしたりする関係をつくります。
- ・管理職は部活動を定期的に参観し、顧問の指導時の発言や部員の様子をしっかりと把握し、何かあれば相談できる体制や雰囲気づくりを図ります。
- ・悩みを抱える生徒がいることを想定し、教育相談時だけでなく、学校に相談窓口を設け、対応できる体制があることを生徒や保護者に周知します。

不祥事防止研修（8月）

部活動関係 事故防止研究会（2班） 中村 東 渡部有紀子 高橋佑輔 ○熊谷早智子

● “3つのH” に気をつけて！スポーツ中の事故 防ぐには…

体育の授業、部活動、体育祭 …学校生活の中で楽しみにしている子どもたちも多い、体を動かす時間。しかしスポーツには、一歩間違えると大きな事故につながるリスクも伴う。

日本スポーツ振興センターが公開している学校事故のデータベースには、学校での運動中に亡くなった子どもが 361 人、障害を負った子どもが 3699 人にのぼると記録されている（2005～2021 年度）。中でも重大な事故の多くを占めているのは、心停止など心臓系の事故(Heart)、頭や首のけが(Head)、熱中症(Heat)という「3つのH」で、スポーツ中に起きる重大事故の約7～8割を占める。

《事故例1》

100mを4回、200mを2回走った。少し休憩を取り、再び走ろうと立ち上がったとき、突然倒れた。人工呼吸、心臓マッサージを行い、AEDを用いて心肺蘇生を試みた。医療機関へ移送されたが、死亡した。（中学3年生・男子・死亡）

《事故例2》

ラグビー部の合宿中、前日にタックル練習中に転倒したが、「大丈夫です」と立ち上がり、休憩を入れながら練習を続けたものの、体調不良を訴えたので練習を中断させた。その夜と翌日の朝も体調不良を訴えることもなかった。試合前練習にコンタクト練習を行っている際に、突然意識を失い倒れた。救急車を要請し搬送されたが、約2週間後に死亡した。（高校2年生・男子・死亡）

《事故例3》

ハンドボール部の活動中、運動場で準備運動としてランニングをしていたところ、35分走り終えた時にふらついたので、顧問が日陰に座らせ休ませたが、自力で給水できず、問いかけにも応えなくなった。すぐに氷で頸部や脇を冷やす等の応急処置を行った。救急車を要請、入院したが、同日死亡した。（中学1年生・男子・死亡）

●スポーツ事故3つのHを防ぐためのポイント

<心 停 止> 負荷の大きな運動をする際はAEDがすぐ運べる準備を。迷ったらAEDを使う。運動場所も日頃から確認。運動後も要注意 クールダウンや体調観察を忘れずに。

<頭や首のけが> 脳しんとうを疑ったらただちに運動中止。練習再開前に予防トレーニングを行う。一人にしない。復帰は段階的に。指導者も子どもたち自身も脳しんとうに関する正しい知識を持つ。

<熱 中 症> 日陰で全身に冷水をかけて風を送る。暑さに慣れる期間を。休み明けは要注意。すぐ冷却。アイスバス・全身にアイスタオル・全身に冷水をかける。

（アイスタオルは1～2分ごとに交換する）



日本の部活動でよくみかける、学校の周りや河川敷などを走る練習。こうした場面にもリスクがある。部活動中の死亡事故について、山中さんが日本スポーツ振興センターのデータを場所別で独自に分析したところ、“学校の外”で起きたケースが4割を占めていた。その9割以上が“3つのH”だった。

学校の外での活動は、さまざまなリスクを考慮して行う必要がある。

学校の中でのAED設置率は100%に近いと言われているが、学校から離れたとたんAEDはどこにもなく、誰かが突然倒れても対応は難しい。校外で練習する場合は、AEDが設置されている場所なのか、なければ持参する必要性も含めて考えることが大切。また、学校の外にいるとき救急車を呼ぶとなると、自分たちが今どこにいるのか伝える難しさが、救急車の搬送ルートはどうしたらいいのかという課題もある。いざというときに備えて、あらかじめシミュレーションしておくことが必要である。

◎外で活動するときは、ペアなどを組ませて1人にしない。

◎学校外に持ち出せるAEDを用意しておき、外部での練習時に持参する。

◎いざというときのため、搬送ルートのシミュレーションを。

私たちの体も心も元気にしてくれるスポーツ。

指導者、保護者、子どもたち…それぞれが事故の予防と対策を知っておくことで、より安心して体を動かすことを楽しめるのではないかな。

参考文献等

NHK スペシャル「学校事故」取材班

<https://www.nhk.or.jp/minplus/0012/topic033.html>

研究テーマ「猥褻行為防止研究会(2班)」

柏谷安彦 ○照内之尋 安田信祐 村上恵美子 佐藤 壘

1 秋田県での事例

- (1) 動画投稿サイトでわいせつな動画を投稿し、不特定多数の人が見られる状態にしたとして、県教育委員会は大仙市の中学校の30代の女性教諭を停職1年の懲戒処分。女性教諭はインターネットの有料の動画投稿サイトでわいせつな動画を投稿し、不特定多数の人が閲覧可能。わいせつ電磁的記録・記録媒体陳列の疑いで去年11月に警察に逮捕(2024.1)。
- (2) 秋田県教育委員会は、18歳未満の女子にわいせつな行為をしたとして、県央部の中学校に勤務する50歳代男性教諭を懲戒免職処分。県教委は管理監督責任を問い、中学校校長を25日付で戒告(2022.3)。

2 不祥事防止ハンドブック(秋田県教育委員会令和6年4月)より

- 「人間は誰もが過ちを犯す可能性がある」と認識すべき
- 人間は刺激がないと弛緩し、不祥事発生リスクが高くなる

3 『教育職員等による児童生徒性暴力等の防止等に関する法律』

教員らによる児童・生徒へのわいせつ行為を防ぐための『教育職員等による児童生徒性暴力等の防止等に関する法律』が、2022年4月1日から施行。いわゆる『わいせつ教員対策新法』である。これまで定義されていなかった児童・生徒への性暴力を定義したほか、児童や生徒へのわいせつ行為で懲戒免職になった教員が再び教壇に立つことを難しくする狙いもあり、児童・生徒の尊厳と人権を守り、教員のわいせつ行為を防ぐ目的で制定された。

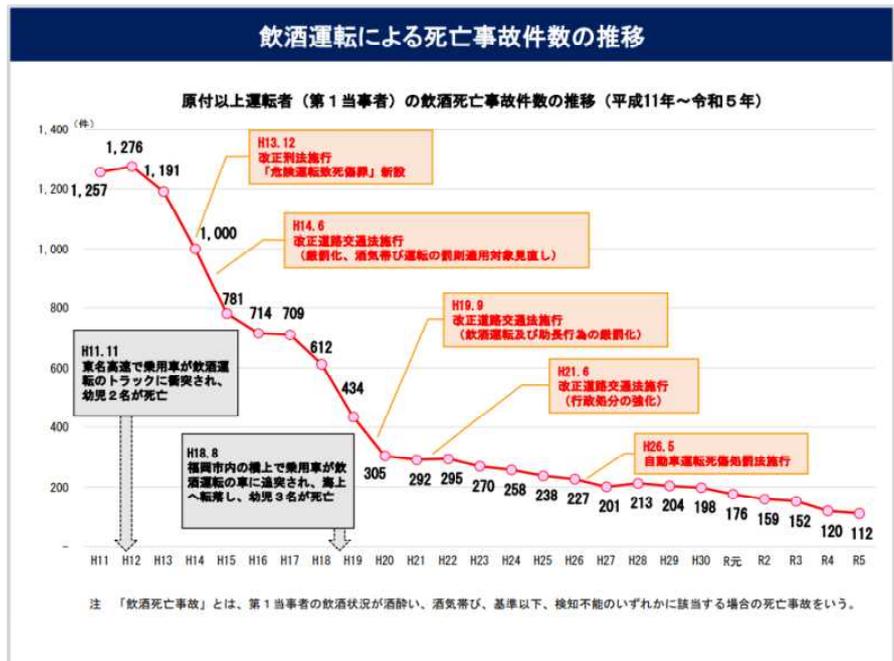
4 まとめと感想

教員という特殊な立場上、清廉潔白で道徳者であり教職員としての振る舞いが求められている。教職員全員とは言わないが、要求されている社会的態度や発言、その振る舞いに応えなければならないという過度な重圧を感じている先生方も一定数いる。日頃のクラス運営や生徒指導、保護者対応等を含む様々な要因で心身ともに疲弊している先生方も全国的に多く、令和4年度で約6,500名(全教職員の0.7%)の教職員が病気休職をしており、推移も増加傾向にある。それに加え、十分あるいは適度な休日やリフレッシュが確保されているか。上記2のとおり「あの先生が。まさか」といった魔が差す行為や発言は誰にでも起こりえるものとして捉えることが肝要だと思われる。

勿論、猥褻行為は許される行為ではない。一方で、先生方の不安やストレスを取り除くための、お互いの「気遣い」「心遣い」は十分とは言えない。ストレス社会を生き抜く難しさは誰しもが感じている現代、先生方が仲良く、些細なことでも笑い支え合える関係性(情意投合、同心協力といったところか)を大切にしたい。

実施時期：10月
 研究会名：飲酒運転防止研究会（1班）
 メンバー：石塚千鶴子
 田口 健一
 中泉 一豊
 ○富田 和樹

【グラフ】



【事 案】

酒気帯び運転で東北森林管理局の非常勤職員が停職 6 か月の懲戒処分 「判断が甘かった」
 (ABS 秋田放送 / 2024 年 10 月 4 日 18 時 6 分)

酒気帯び運転で東北森林管理局の非常勤職員が停職 6 か月の懲戒処分 「判断が甘かった」
 今年 6 月、秋田市内で酒気を帯びた状態で自家用車を運転したとして、林野庁東北森林管理局に勤務していた 60 代の男性非常勤職員が、4 日付けで停職 6 か月の懲戒処分となりました。職員は「判断が甘かった」などと話しているということです。

東北森林管理局によりますと、60 代の男性非常勤職員は、今年 6 月 15 日の午後 6 時ごろから午後 11 時半ごろにかけて、1 人で秋田市内の飲食店 2 軒を訪れ、合わせてビールをグラス 2 杯ほど、それにウイスキーの水割りをグラス 2 杯以上飲みました。

日付が変わるところから、コインパーキングにとめていた自家用車の中で 6 時間半ほど仮眠をとった後、帰宅するため自家用車を運転していたところ、パトロール中の警察に呼び止められ、呼気検査で基準値を上回るアルコールが検出されました。

東北森林管理局の聞き取りに対して「二日酔いの症状がなく大丈夫だと思った。判断が甘かった」などと話しているということです。

職員は、8 月に罰金 30 万円の略式命令を受け、納付しています。

東北森林管理局は、この職員を 4 日付けで停職 6 か月の懲戒処分にしました。職員は依願退職しています。

【図】



【引用元】

グラフ
警視庁



図

A S K (アルコール問題全国市民協会)



事例1 被処分者は、第1学年会計、第2学年会計、第3学年会計及び学校会計から不正に現金を引き出し、又は職員に指示して引き出させ、合計223万円を着服した。

<背景等>

10年ほど前から個人的な交際費用や借金、母親の介護施設への費用、生活費などの負担により経済的に非常に苦しい状態にあった。加えて、連帯保証人としての支払いのために借金等がかさみ、経済的に行き詰まってしまった。

<処分内容>

懲戒処分：懲戒免職（本人）、減給1/5 3月（2名）、減給1/5 1月（1名）、

令和6年 不祥事防止ハンドブックより

一般企業ではどのように横領や着服を防いでいるのか。

原因として考えられること 動機（多重債務他）

自己弁護（他の人もやっている、仕方がなかった他）

機会（横領や着服ができる環境や機会がある）

おおもと経営オフィスコラムを参考

<対策>

1. コンプライアンス研修を徹底する
2. 就業規則の懲戒規定を見直す
3. ダブルチェック体制を整える
4. 現金は速やかに入金するルールを構築する
5. 小口現金を廃止する
6. 入出金履歴を定期的を確認する
7. 経理業務をブラックボックスとしない
8. 経理業務をアウトソーシングする

TOKYO 経理サポートコラムより引用

まとめ

着服は、不祥事防止ハンドブックにあるとおり、「公金・公有財産の横領等公金又は公有の財産を横領、窃取した場合は免職とする。」また、「私費の横領等（1）私費を横領、窃取した場合は、免職とする。（2）私費に関し不適切な会計処理があった場合は、停職、減給又は戒告とする。」とあるように、重い非違行為である。調べてみると、起きてしまう原因として、動機がある。多重債務に陥らないような経済的自立をすることと起こさない、また、起こさせない環境が大切であると感じた。

チェック体制を強化し、業務の複雑化するなどは多くの人員と事務作業となることも予想される。しかし、適正な会計処理が、生徒の教育の充実となることを改めて考え、業務の遂行にあたるべきと考える。

冬場の安全運転ポイント集

冬道は、路面の凍結・積雪または降雪による視野の制限など、平常時に比べいわゆる「冬型事故」が起きることが多くなっています。冬道の特徴と、注意すべきポイントをまとめましたので、安全運転にお役立てください。

冬道の走行のポイント

減速ははやめに

雪道では特に「止まること」が難しいもの。赤信号で止まるときなども早め早めに減速しないとスリップしてしまうことや、後ろの車がスリップして追突される危険もあります。ゆとりを持って、とにかくスピードを落とすことを心がけましょう。

「急」のつく運転は厳禁！

凍結路・積雪路では、通常の運転と違いタイヤのグリップ力が格段に落ちています。急ハンドルはスピン・急ブレーキはスリップ・急加速はホイールスピンの原因となります。通常の走行でも同様ですが、冬道では特に「急」のつく運転は厳禁です。

道路状況に注意を！

冬道では、雪や氷がなくても、日陰や橋の上が氷結している場合などがよくあります。こうした場合でもあわてないように常に道路状況に気を配ることが必要です。

チェーン装着は早めに

タイヤにチェーンを装着する場合、いつ、どの時点で装着すべきかの判断が重要となります。「対向車がチェーンを装着している場合」「坂道にさしかかる場合」「チェーン脱着場がある場合」などが目安となります。また、装着する場合は、脱着場がもっともいいのですが、ない場合は、休憩所・レストランの駐車場など広くて水平な場所を選びましょう。道路上での装着は大変危険です。

発進はゆっくりと

雪道の場合、MT車の1速で通常通りの発進をしようとする、タイヤに駆動力がかかりすぎてホイールスピンを起こすことがあります。クラッチをゆっくりとつなぎ、回転をあげすぎないように注意するか、2速での発進をしましょう。また、AT車はクリープ現象を利用し、ゆっくりと発進するようにしましょう。

上り坂は高めのギアで

坂を上る場合は、坂の上りに入る前にあらかじめ坂の勾配に合わせて適切なギア（少し高めのギア）で上りましょう。アクセルの踏み込みを一定に保って気長に上ることがコツです。

下り坂は低めのギアで

坂の下りは低めのギアを使い、エンジブレーキを使いながら減速するようにしましょう。ただし、急なシフトダウンは空回りを起こす可能性があるため変速は坂の手前で行いましょう。AT車では2レンジかLレンジを使うとエンジブレーキを使うことができます。

凍結路面（アイスバーン）上では操作しない

凍結路面ではタイヤのグリップ力がほとんど失われるため、原則的にはなにも操作をせず、わずかに残ったグリップ力を殺さないように通り過ぎるのが安全です。交差点・急カーブの手前・トンネル出口・橋の上・日陰などにアイスバーンはできやすいため、道路状況を観察しながらの慎重な運転が重要です。

新雪路の注意点

新雪路では雪にハンドルを取られたり、タイヤが空回りしてスタックしたりする場合があります。タイヤが空回りした場合、さらにタイヤを回し続けるとどんどん深みにはまっていきます。余分な雪を取り除き、ゴムマット・チェーン等を敷いてグリップ力を回復させるようにしましょう。古新聞等をトランクに積んでおくときこのようなときに活用できます。

ワダチを上手に使って走りましょう

新雪に隠れて思わぬ凸凹があったりするケースがあります。このような事態を避けるためにも新雪の道は避け、ワダチを利用して走る方法が無難です。ただし、ワダチは多くの車の走行で、凍結している場合があるためスピードには注意が必要です。さらに、ワダチから脱出し右左折するときにもハンドルを取られないように慎重に運転しましょう。

雪の中で駐車するときの注意点

雪の壁にバックで突っ込まない・・・排気管（マフラー）が雪で詰まることがあります。

サイドブレーキを引いておくと凍結することがあります。

凍結防止のためワイパーブレードは立てておきましょう。

屋根から雪やつらが落ちてくる場合がありますので軒下等は避けましょう。

ドアのカギ穴が凍ることがありますので、ガムテープなどを貼っておきましょう。

ぜひ用意しておきたい装備品

タイヤチェーン

除雪用ブラシ

スコップ

軍手・作業衣類・長靴など

けん引用ロープ

ブースターケーブル

針金・ペンチ・ドライバー等工具

古毛布・古新聞・砂など

ガムテープなど

出典：損保ジャパン「冬場の安全運転ポイント集」より

【事例】

北海道教育委員会は10月10日、酒気帯び運転で罰金刑となった中学校教師を**懲戒免職処分**にしました。処分を受けたのは、北海道新篠津村の新篠津中学校に務める男性教師（39）です。男性教師は2月3日、恵庭市内で自家用車を運転中雪山に乗り上げました。駆け付けた警察官が男性教師の呼気を調べたところ、基準値の3倍のアルコールを検出。酒気帯び運転で検挙されました。男性教師は8月8日付で**罰金30万円**を支払っています。

道教委によりますと、男性教師は前日にワイン360ミリリットル、ウイスキー400ミリリットルを飲んでいました。二日酔いのまま、朝から恵庭市の部活の大会に自家用車に向い、帰る際、午後1時すぎに雪山に乗り上げました。男性教師の車に生徒は乗っていませんでした。

道教委の聞き取りに、男性教師はほかにも数回二日酔いのまま車を運転していたと話しています。

ほかにも男性教師が二日酔いで出勤していたのを校長が把握しながら、教育委員会に報告していなかったとして、減給2か月（給料の10分の1）の懲戒処分となりました。（UHB 北海道文化放送ニュースより）



教員（地方公務員）が飲酒運転をしてしまうと…刑罰・行政処分に加えて「懲戒」処分

酒酔い運転：アルコール濃度とは無関係で、仮に酒気帯び運転の基準値を下回る0.15%以下だったとしても、飲酒の影響が顕著に見られれば（直線をまっすぐ歩けない、呂律が回っていないなど）、酒酔い運転として処罰されることになる。

酒気帯び運転：飲酒検問などで警察がアルコール検知器によって測定した数値ベースで判断される。酔いの有無／個人のお酒に強い・弱いにかかわらず、規定を超えるアルコール濃度が検出された時点で処分の対象となる。

	酒酔い運転	酒気帯び運転	同乗者などの処分
刑罰	5年以下の懲役又は100万円以下の罰	3年以下の懲役又は50万円以下の罰金	2年～3年以下の懲役または30～50万円以下の罰金
懲戒	免職又は停職 とする。この場合において人を死亡させ、又は人に傷害を負わせた職員は、免職とする	免職、停職又は減給 とする。この場合において人を死亡させ、又は人に傷害を負わせた職員は、免職又は停職（事故後の救護を怠る等の措置義務違反をした職員は、免職）とする	飲酒運転をした職員に対する処分量定、当該飲酒運転への関与の程度等を考慮して、 免職、停職、減給又は戒告 とする。

※懲戒免職処分を受けた場合→**教員免許状が失効**し、免許管理者に返納となる。

↓飲酒運転の行政処分と罰則
警察庁リーフレットより



↓アルコール分解時間計算シート
特定非営利活動法人 ASK



↓西鉄グループウェブサイトより

Nishitetsu Group

西鉄グループ
飲酒運転「3ない」の誓い

1. 絶対に飲酒運転をしない
2. 絶対に飲酒運転をさせない
3. 絶対に飲酒運転を見逃さない

不祥事防止研修（2月）

研究会名：【交通事故防止研究会（2班）】

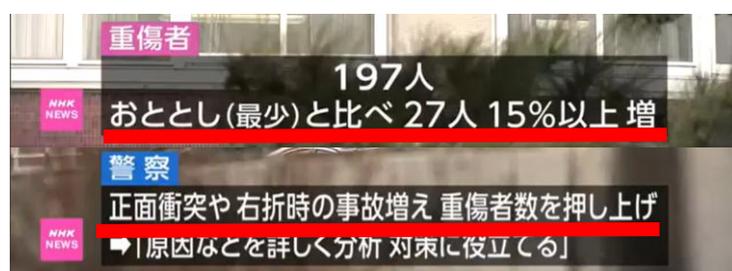
メンバー：浅沼宏明 ○内藤慎平 高橋天磨

1. 秋田県の交通事故の現状 …県警察本部による令和6年1年間の事故件数（1/16 NHKニュース放送より）



▶ ○事故件数・怪我人
ともに過去最少

一方で・・・



▶ ▲重傷者が15%以上増加、
特に正面衝突や右折時の
事故で重傷者が増加

2. 教職員による上記類似事例（死亡・重傷者） *不祥事ハンドブックより

【事案】

○被処分者は、午後0時25分頃、国道を自家用車で走行中、仮睡状態に陥り対向車線に進入し、自動車前部を被害車両の前部へ衝突させた。

○この事故により、被害車両の同乗者を腹腔内出血等の傷害に基づく出血性ショックで死亡させ、運転者にも右鎖骨骨折等で加療約2ヶ月の傷害を負わせた。

【原因・背景等】

○自家用車を運転中に眠気を催し、前方注視が困難となったが、直ちに運転を中止し、休憩をとることなく運転を継続したため、仮睡状態に陥り、対向車へはみ出した。

【処分内容】 ○懲戒処分：停職6月

○行政処分：違反点数22点（免許取消）、欠格期間1年

○刑事処分：禁固3年、執行猶予4年（過失運転致死傷）

【類似の事例】 市道を走行中、濡れた路面の乱反射で前方不注視となり、横断歩道を横断中の被害者に気づかないまま自車前部と衝突させ、出血性ショックなどにより死亡させた。

（懲戒処分） 停職6月（判決前に辞職、退職手当4割支給）

（行政処分） 違反点数22点（免許取消）、欠格期間1年

（刑事処分） 禁固1年8月、執行猶予3年（過失運転致死傷）

不祥事防止研修（3月）

研究会名：SNSによる事故防止研究会

メンバー：平沢隆志 大島俊也 小笠原清輝 ○今藤暁子

1. SNS詐欺等、騙されやすい人

- ① テレビや雑誌で宣伝する商品を選ぶことが多い人.
- ② 「期間限定商品」「タイムセール」に弱い人
- ③ カットになりやすい人
- ④ 世間体や周囲からの評価を気にする人
- ⑤ 権威に弱い人
- ⑥ 「ターゲットに当てはまらない」と思う人
- ⑦ 「自分は詐欺を撃退できる」と思う人

2. 高校生のSNS詐欺被害

宮城県の少年（17）が渡航するきっかけは**オンラインゲーム**。ゲームで知り合った日本人の男（29）から「むこうに行くと良い仕事がある」などと誘われ、1月上旬に1人で家を出た。家族から行方不明届を受けた警察が捜査した結果、成田空港へ行って、そこからタイ行きの飛行機に乗ったことがわかったという。日本側がタイ政府に少年の存在を伝え、タイがミャンマー側に働きかけた結果、解放、保護されたという。少年は渡航から約10日後に帰国した。

愛知県の少年（16）は**ネット**でやりとりしていた相手から昨年11月ごろ、「海外で特技を生かせる仕事がある」と誘われた。指示を受けてパスポートを取得し、相手が用意した航空券で12月に中部空港からタイに1人で渡航。車で移動し、ボートに乗り換えてミャンマーに入国させられた。警察官などをかたる詐欺に加担させられ、1日10時間ほど「かけ子」をし、報酬を受け取っていたという。ノルマが課され、達成できないとスタンガンで暴行される環境下だった。2月になり家族に「ミャンマーにいる。助けて欲しい」と連絡があり、大使館を通じて捜索を要請した結果、タイ当局が保護。2月16日に帰国した。

3. 騙されないために、詐欺の手口を知っておく

- 相手のニーズを徹底調査：騙そうとする側も誰彼構わず声をかけているのではなく、相手のリサーチ、性格などを調べている。
- 承認欲求をくすぐる：人は他人から認められて、重要な人物と評されたいという思いを強く持っているため「あなたにしかできない特別なこと」と囁きかけ、社会貢献や人助けを依頼してくる。
- 最新技術で効率化：メールやSNSで不特定多数の人に迷惑メールをばらまいて拡散させる。

~~~~~ 「絶対ダメされない人」ほどダメされる」（多田文明 著）より ~~~~~  
詐欺は自分は大丈夫という気持ちとうまくついてきます。怖いのはプロでもダメされてしまうことがあるということで、専門知識のない僕みたいな人は赤子の手をひねるようなものなのかと思ってしまう。  
こんなのにダメされるわけないでしょ！と思ってる人ほど術中にハマってしまう。

こちらの知識も日々アップデートしていく必要があります。